

## 平成30年第5回教育委員会会議

平成30年4月11日

午後 2時59分 開会

### 1 開会宣言

○葛西教育長 では、ただいまから平成30年第5回教育委員会会議を開会いたします。  
会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から報告願います。

○長谷川教育総務課長 本日、全員出席でございます。

○葛西教育長 傍聴者はお見えですか。

○川喜田教育総務課 本日、傍聴者はお一人いらっしゃいます。

### 2 会議録署名者の決定

○葛西教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。  
お諮りいたします。

本委員会の会議録署名者として、豊田委員と松崎委員とで行いたいと思いますが、ご異議はございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 ご異議がないようですから、提案どおり決定いたします。

### 3 議事

#### (1) 議案

##### 議案第13号 専決処分の報告及び承認について

○葛西教育長 これより議事に入ります。

それでは、まず、議案第13号、専決処分の報告及び承認について説明をお願いします。

○長谷川教育総務課長 では、関係資料をよろしくお願いたします。

めくっていただきまして1ページでございます。

議案第13号、専決処分の報告及び承認についてでございます。

平成30年4月1日付市費支弁職員の人事異動について、専決処分を4月1日付で教育長が行いましたので、その承認を求める議案でございます。

2ページ、3ページにその管理職員の配置について資料がございます。

まず、今回の平成30年度の市全体の人事異動のポイントといたしまして、異動規模が883名ということで、29年度の788名に比べて100名近い、多い異動規模であったというところでございます。

これは、1つ、機構改革による新部の新設、シティプロモーション部、それからスポーツ・国体推進部というところの新しい部の設置というところが大きいというところでございます。今回の新部の設置に基づきまして、教育委員会の部も11課から9課に変わったというところでございます。

それでは、2ページの管理職の配置について、簡単にご説明をさせていただきます。

まず、副教育長でございますが、栗田が退職をいたしましたので、後任に松岡副教育長というところでございます。

それから、教育監の前上浦教育監が富田小学校に転勤されまして、新たに前指導課長の廣瀬教育監というところでございます。

それから、中村理事でございますが、スポーツ・国体推進部との併任というところで、理事として施設担当で、併任で在籍をしていただくものでございます。国体と両方とに在籍していただくというところでございます。

それから、あと変動のあったところを申し上げますと、教育総務課の政策グループリーダー稲毛でございますが、副参事兼政策グループリーダーというところでございます。

それから、施設課長でございますが、前今村施設課長が市立病院施設課に異動になりまして、後任が、副参事兼補佐の広瀬が新しく施設課長というところでございます。それから、その後任として、内田副参事兼課長補佐で転任というところでございます。

また、学校教育課副参事兼課長補佐の内村でございますが、笹川中学校に転任になりまして、後任に、稲垣前中部中学校教頭になります。

また、社会教育課でございますが、葛山課付主幹が副参事課長補佐というところでございます。

そして、人権・同和教育課でございますが、前課長の山下が三滝中学校に転任になりまして、後任が相馬参事兼人権・同和教育課長でございます。そして、鈴木副参事が楠小学校に異動になりまして、その後は北住というところでございます。

また、指導課は、前廣瀬指導課長の後任として、高橋前内部東小学校長に来ていただいております。

また、教育支援課でございますが、研修・研究グループリーダーの前丹羽リーダーが富田中学校に転任になりまして、後任として世古グループリーダー、また、特別支援教育・相談グループリーダーの矢田グループリーダーも桜台小学校に転任になりまして、後任が前田グループリーダーというところでございます。

それから、図書館長が村上から大森に異動になりまして、村上が上下水道の総務課に転任、異動となりました。

また、博物館前副館長の伊藤でございますが、文化会館に異動になりまして、後任として川口副館長というところでございます。

そして、3ページには、こども未来部の所管ではございますが、幼稚園の異動というところでございますが、この中で、一番下に、楠北幼稚園、楠南幼稚園につきまして、岡村楠北幼稚園園長が楠南の幼稚園園長を兼務というふうに書いてございますが、これについてこども未来部から資料をいただいておりますので、報告をさせていただきます。

平成30年度における市立楠南幼稚園の園長を兼務についてというところで、経緯等をご説明させていただきます。

まず、楠南幼稚園でございますが、園児が減っておった関係で、新入園児が募集して9月末現在で4名であったというふうなことでございます。それが、11月に3名となり、その3名に状況を説明すると、新入園児が今年の2月9日の段階でゼロになったと、要は新5歳児のみというところの状況になった、新しく新入園されるお子さんがいなくなってしまったというところでございます。

その後、在園の新5歳児、8名いらっしゃったんですが、その新5歳児の保護者の方にご説明をさせていただいた中、8名のうち6名が楠北幼稚園への転園を希望し、残りの2名については引き続き楠南幼稚園での保育を希望したというところでございます。要は、楠南においては2名、それも5歳児2名のみという、そういう状況になったというところでございます。

そういう状況の中、3月9日に、楠地区の連合自治会長であるとか関係の委員の方、また、保護者の代表の方と協議を行いまして、楠南幼稚園は園としては存続をさせるが、園行事等を考慮して、園長先生は楠北の園長が兼務するという、そういう対応となったという報告を受けております。

現在、楠南幼稚園は、園長を除き、正職1名、それから臨時が1名、それから用務員、これも臨時ですが、1名の、3名での体制と、そして、日々の幼稚園での活動につきまし

では南ですが、行事等は北と共同で行う旨の報告を受けておりますので、この旨、ご報告をさせていただきます。

説明は以上でございます。

○葛西教育長 何か、ご質問、ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

○渡邊委員 楠は、5歳児が2名だけ残って、一応、1人の正職員の方がその子たちを教育するという体制なんですね。

○長谷川教育総務課長 はい。委員のおっしゃるとおりで、1名の正職員と1名の臨時の方、それと用務員の方が、これも臨時で1名と、常駐として3名と、園長先生は兼務で北の園長先生が兼務されると。

○渡邊委員 この南北の幼稚園の距離というのはかなり近いんですか。だから、こういう話になって、今まで南に行っていた子の6名が北へ行きますというのは、これは、少ないところではどうもぐあいが悪いのでというような、そんなことで落ちつきたい、移るといふことなんですかね。

○長谷川教育総務課長 やはり園の活動といたしましては、新の、新しい子たちがゼロであるとする、もう年長組だけの活動ということになるというところで、8名、それも8名というところで、今後の行事等を含めた園の活動について保護者の方と相談すると、8名のうち6名の方は、じゃ、北へ通いますということですが、いろいろご事情があつてお二人だけはどうしても南で希望されたという経緯の中、地域の方と保護者の方と協議して、園としては存続させると、お二人でもいわゆる園としての活動をさせるというところで、距離的には、1キロは離れていないのかな、何百メートル……。

○渡邊委員 何百メートルぐらいという感じですか。

○稲毛教育総務課課付副参事・政策グループリーダー 1.4キロ。

○長谷川教育総務課長 失礼しました。1.4キロ程度離れておることでございますが、状況としてはそのように報告を受けております。

○渡邊委員 存続問題は当然、いずれ出てくるということですよ。

○葛西教育長 そうですね。

○渡邊委員 結構です。

○葛西教育長 それでは、ご異議がなければ採択としてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 採択いたします。

それでは、ここで事務局の自己紹介をお願いしたいと思います。

では、副教育長からお願いします。

○松岡副教育長 政策推進部秘書課長から副教育長を拝命いたしました松岡と申します。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

○廣瀬教育監 指導課長を3年やらせていただきまして、教育監を拝命いたしました廣瀬と申します。よろしくお願い申し上げます。

○中村理事 昨年に引き続きまして、理事、施設担当ということで、先ほどもご紹介がありましたけど、スポーツ・国体推進部と併任ということで、実は両部にまたがって業務ということで、スポーツ・国体推進部では、学校開放、これとの絡みもございますので、その辺の連携をとりながらやっていきたいなというふうに思っております。よろしくお願い申し上げます。

○田中政策推進監 教育委員会の政策推進監の田中と申します。2年目になります。どうぞよろしくお願いいたします。

○長谷川教育総務課長 教育総務課長の長谷川でございます。3年目となります。今年1年、どうぞよろしくお願いいたします。

○広瀬教育施設課長 教育施設課長の広瀬と申します。教育施設課には6年目になりますが、この教育委員会議に初めて参加させていただくことになりました。一生懸命頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

○川尻社会教育課長 社会教育課長3年目になります川尻でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○大森図書館長 議会事務局から異動してまいりました大森と申します。よろしくお願いいたします。図書館長の大森です。よろしくお願い申し上げます。

○川口博物館副館長 市民文化部から参りました、博物館の副館長を仰せつかりました川口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○川邊教育支援課長 失礼します。教育支援課長の川邊です。2年目になりました。よろしくお願い申し上げます。

○相馬人権・同和教育課長 失礼します。三重西小学校長から人権・同和教育課長を拝命しました相馬哲と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○高橋指導課長 内部東小学校から参りました指導課長の高橋と申します。どうぞよろし

くお願いいたします。

○海戸田学校教育課長 学校教育課長2年目になります海戸田です。よろしくお願ひいたします。

○川尻社会教育課長 教育長、ごめんなさい、済みません。私、さっき間違えてしまひまして、3年目と言ひてしまひました。済みません、2年目でございます。

○葛西教育長 いやいや、それだけ雰囲気は漂ひております。

## (2) 報告

### 1 学校業務サポート事業について

○葛西教育長 じゃ、続いて、報告事項に入ります。

学校業務サポート事業について説明をお願いします。

○海戸田学校教育課長 学校教育課長、海戸田でございます。

別紙3枚とじの教育委員会定例会資料をごらんになってください。

平成30年度学校業務サポート事業についてということで、昨年度来、ずっと言われておりました教職員の負担軽減に向けての具体的な取り組みをもう今年から始めていくということで、一部予算化されたものについて、今年からもう始まっている事業についてご説明申し上げます。

まず、1枚めくっていただきまして、学校業務サポート事業ということでございます。

事業の概要については、これは教員が抱える事務作業等の負担軽減で、本来担うべき業務に専念できる環境を整えるために学校業務アシスタントというのを設置するというところでございまして、これは1日4時間程度、週5日でございます。これは、具体的な業務については印刷とかデータの入力とか、学校の状況に応じて、実情に応じてこの人たちを使ってもらおうということでございまして、既にモデル校に、小学校、中学校、それぞれ、小規模、中規模、大規模、それぞれ1校ずつ選びまして、それぞれのモデル校に配置してございます。

続きまして、2ページ目でございますが、中学校の部活動協力員でございます。

これも、部活動が日々の業務の時間の制約、大変負担になっているということもありません。部活動の負担を軽減するために協力員を配置するというところで、これも、小規模校、中規模校、大規模校、それぞれモデル校を1校ずつ選びまして配置をしております。

大体、放課後1時間から2時間程度ということでございまして、これは、学校職員とし

での位置づけはまだございませんので協力員というふうな立場でございますが、やがてこれも検証する中で制度設計して、学校職員としての位置づけをしていきたいというふうに考えております。これも3校ついています。

3ページ目を見ていただきますと、今申し上げた学校業務アシスタント、小学校、中学校、それぞれの規模に応じた具体的な学校、申し上げますと、小学校ではそれぞれ、常磐小学校、保々小学校、八郷西小学校、大、中、小規模校でそれぞれモデル校、中学校におきましては、同じく大、中、小で、山手中学校、南中学校、保々中学校に学校業務アシスタントを配置して、もう既に学校で仕事をさせていただいております。

部活動協力員については、大規模校、中規模校、小規模校、それぞれ、朝明中、楠中、橋北中に配置しております。

それから、もう一つは、その業務を検証しながら、いかに、教職員の多忙化を具体的にどのように解消していくかということを検証しながら、モデル校を視察したりする中で、こういうふうな事業計画を4ページ目に入れさせていただいております。

大体6回の計画で、特に業務改善アドバイザーとして、外部から教育評論家で中教審の学校における働き方改革の特別部会の委員もされておる妹尾昌俊さんをお招きして、講演をいただいたり、あるいは具体的にモデル校を視察する中でご意見をいただいて、さらに制度設計をし、やがてそれを拡大し、全校配置を目指していくというふうなことでございます。

最後のページになりますが、5ページ目は、学校業務改善検討委員会の委員、事務局並びにアドバイザーのお名前も挙げてあります。そういったメンバーで具体的に学校業務改善検討委員会を立ち上げて進めていきたいと考えております。

いろんな部分で各課横断的に予算もついておりますので、各課横断的に総合的に一丸となって進めていきたいというふうに考えておる次第でございます。

以上でございます。

**○葛西教育長** 平成30年度の学校業務サポート事業、学校業務アシスタント、それから部活動協力員について、もう既に取り組みを始めておるわけですがけれども、その中身、それから、本年度の事業計画、そして、改善の検討委員会の委員の名簿と、こういうものをご紹介させていただきました。

何か、ご質問なり、あるいはもう少し詳しくお尋ねいただくところがございましたらよろしくお願いたします。

○渡邊委員 アシスタントと、それから部活動協力員って、どのような方を選んで今年度それぞれのところに配置されたのかということをちょっと教えてほしいです。

○海戸田学校教育課長 学校業務アシスタントについては、配置校も一応公募をいたしまして、手を挙げていただいたと。ほとんどの学校がという、うちも欲しいということの手を挙げていただきましたが、その中で、特に規模にも応じて、学校の実情にも応じて選ばせていただきました。マネジメントをする側もありますので、マネジメント研修会も開かせていただいて、その中で効率的に使っていただけるであろうところを選ばせていただきました。

具体的に入っている学校業務アシスタントについては、ハローワークで募集した人もおりますし、こちらに登録に来ていただいた方もおりますし、ほんとうに実際にとってもよくやっていただいて、今、マネジメント研修会もしましたし、それから、事前に当事者を集めて研修会もいたしましたが、学校のこともよく理解していただいて、それぞれ入っていただいております。

部活動協力員については、今年の場合は再任用教諭、それから非常勤講師、この方々に入っていただいております。

○加藤委員 関連しますけど、このアシスタントの方々は、1日4時間、週5日、これ、年間を通してですね。

○海戸田学校教育課長 はい、年間です。

○加藤委員 この任用形態はどんな形態でいっておるんですか。

○海戸田学校教育課長 臨時職員としての位置づけです。

○加藤委員 そうすると、時給で支払われると。

○海戸田学校教育課長 はい。

○加藤委員 なるほど。ちなみに部活動協力員は、今言われた再任用とか非常勤の方で、これも1日2時間程度。

○海戸田学校教育課長 1日2時間程度です。

○加藤委員 2時間程度ですか。

○海戸田学校教育課長 程度です。

○加藤委員 1時間半もあり。

○海戸田学校教育課長 1時間半もあります。

○加藤委員 これもやっぱり時給ですか、そうすると。



- 海戸田学校教育課長 これは、はい。ただ、臨時職員ではなく報償費という形で。
- 加藤委員 なるほど。夏も冬も、年間を通して。
- 海戸田学校教育課長 年間を通して、特に冬時間なんかはあまり要らないと思いますので、夏に多目にとか。
- 加藤委員 それこそ4時半にはクラブが終わりますよね。
- 海戸田学校教育課長 それぞれ季節によって違いますけど。
- 加藤委員 それは、学校の実態によって。
- 海戸田学校教育課長 はい、学校の実態に応じてです。
- 加藤委員 わかりました。
- 松崎委員 そうすると、アシスタントの業務内容というのは、これは、1ページに書いてあるように、もうきっちりとこの7項目に限って、明確に線引きをしてということなんですか。
- 海戸田学校教育課長 大体そのようなことをやっていただくということで、それも学校の実情に応じてです。
- 松崎委員 学校に任せるといふ。
- 海戸田学校教育課長 基本的には、はい。
- 豊田委員 これは、4月1日というか、2日からもう既に動かれているということなんですか。
- 海戸田学校教育課長 そうですね、2日から、マネジメント研修会ということで、ほんとうは4日ぐらいから行っていただいています。
- 豊田委員 なるほど。このアシスタントの方は、ハローワークさんとかというふうなことでであると、特に今まで学校にかかわったことがあるということではなく。
- 海戸田学校教育課長 ある方も中にはみえます。
- 豊田委員 中にはいらっしゃる。
- 海戸田学校教育課長 はい。事務補助さんをやってみえた方もみえます。全く、民間の銀行員の方もおりますし、いろいろおります。
- 豊田委員 なるほど。年齢はどのぐらいの方がいらっしゃるんですか。
- 海戸田学校教育課長 年齢はそれぞれです。30代、40代が中心だと思います。
- 松崎委員 性別は。
- 海戸田学校教育課長 性別は、今のところ全部女性です。

○加藤委員 女性。

○海戸田学校教育課長 女性です。部活動指導員は2人男性で、1人女性です。

○加藤委員 これ、いよいよこれから、いわゆる規模が拡大されてくるときに、優秀な人材が協力いただける手応えはございますか。

○海戸田学校教育課長 今後は制度設計とともに人材確保も課題になってくると思いますので、その辺のところはこれから考えていきたいと思います。

見込みがあるかと言われると、ちょっと大変な作業になりますが、特に部活のほうは。

○加藤委員 好きで協力するよというボランティア的にかかわっていただく方は、2時間で仕事があってもなくてもやるときは協力しましょうという姿勢でやってもらえればいいですけど、ある程度、職として考えるとなかなか、年間を通してそういうふうな働き方をしてもらうというのは、夕方の時間帯というか、午後の遅い時間で、だから、人材がほんとうに、これ、大変ですね。

だから、ぜひぜひ、この検討委員会を立ち上げてもらったときでも、どんなふうがいい人材を確保していくかということも一遍話題にも上げていただくといいかなと思いますね。

○渡邊委員 成否の鍵はそこだと思いますよね。誰でもというわけじゃないですからね、これ。多様ですから、非常に。

○海戸田学校教育課長 今後、人材確保もそうですけれども、しっかりとした、今年は結果を出していかないと次につながらないので、ですので、一体この人たちを配置することによってどれだけの勤務時間の短縮につながったのかとか、具体的な数字を出しながら検証していきたいというふうに考えております。

○加藤委員 それ、客観的にどんな資料で考えてみえますか。

○海戸田学校教育課長 今のところは、この検討委員会の中でも検証していく予定ですが、勤務時間と、具体的な調査用紙もつくっておりますので、その辺のところ、一体、学校業務アシスタントがどういうふうな仕事をして、どのような時間が浮いてきたとか、そういった部分も検証しながら、学校の感触も確かめながら、あるいはマネジメントしているほうの意見も聞きながら、そして、アシスタント当事者のご意見も伺いながら進めていきたいと考えております。

○加藤委員 そういう客観的なデータを徹底的に集めるのもそうですけど、何となく学校の風通しがよくなったとか、そういう部分がありますよね、いわゆる感性的な部分。だからそんなのもちょっと尺度の中に入れていただくと、なかなか1日4時間で5週、協力、

時間を提供してもらったから、これだけ業務が減りましたというのもあれですけど、何か今まで、去年まで何かぎすぎすした学校の雰囲気、やっぱりこの方に来ていただくことによって、何かすーっと風が通っていくという、職場の空気が変わったというか、そういう部分も、学校ってそれが非常に大事ですので、難しい要求かわかりませんが、そんなのも1つの尺度であらわれてくるといいのかなと思いますね。

○松崎委員 業務アシスタントの人から見て、学校というのはこんなこともしないといけないのかという、これは一般的に考えるとそれって必要じゃないんじゃないかというような業務内容が見えてくるかもしれない。

○海戸田学校教育課長 新たな目で見ていただいて。

○松崎委員 そのあたりの意見もあればという。

○海戸田学校教育課長 そういった部分も検証。

○加藤委員 でも、それも1年たつとすぐになれてしまうんですね。

○松崎委員 そうですね。

○加藤委員 だから、4月、5月に聞かないと。

○渡邊委員 これ、スケジュール感としまして、一番最後のページに、2月に大体総括のための情報を集約してまとめて、次の年度の予算取りか何かに反映させるというような、そういうスケジュール感ですよ、これは。ではない？

○海戸田学校教育課長 正直申しまして予算にはそれでは遅いので、できれば1学期の総括の段階で具体的に委員に数字も示しながらやっていきたいというふうに考えております。調査はもう5月、6月、7月から毎月とっていきますので、活用状況調査、それから、事務局側も実際に行けるところに現場を見に行ったりもしてやっていきたいと考えています。

○渡邊委員 大体、1学期の状況を見て、それである程度つかむというようなスケジュール感ですね。

○海戸田学校教育課長 そうですね、大体第4回目の7月12日、それから9月に向けて、そのあたりに向けて、予算取りも含めてやっていきたいというふうに思います。

○廣瀬教育監 よろしいですか。

少し心配するのは、教師はなかなか、勤務時間に関する意識というのは多分変わらないと思われるんです。こういったアシスタントを入れても、あいた時間で別の仕事を探してしまうということが多分あると思うんです。その中で、浮いた分の仕事として、授業

の準備に集中できる時間であるとか、専門性を高めるために少し研究をする時間とか、児童生徒と向き合う時間という、あいた時間をどんな仕事に使ったのかというものまで見ていかないと結果が出ないのかなというの少し心配しているので、単に勤務時間が縮減されただけではなく、仕事の質がどう変わっていったかは追跡していくという必要があるかなと思いますので、その部分もデータとして出たらありがたいのかなと思っています。

あと、あわせて、総勤務時間というものの意識改革を図っていかなくてはいけない、教育委員会の事務局の職員も同じなんですけど、考えていかなければならないことかなと思っています。

○葛西教育長 これ、大規模校でも小規模校でも、半日4時間5日という、今、入り口ですよね。これは、中規模校、大規模校、やはりそれだけ仕事の量が違うわけですから、来年度で制度化していく上では、そこはもう少し実態に即した時間数というふうな、そういうふうなこともぜひ頭の中に入れていただきたい、そういうふうなこともやっぱり合理的に考えていただくというふうなことも大事じゃないのかなというように思います。全て同じということじゃなくて、やはりそれはしっかりと検討もしていかなきゃならないなというふうな、そんなふうに思っています。

これはまた節目のときにちょっと整理していただいて、またこの場でも一度議論をして、教育委員の先生方からご助言いただいたりというふうな、そういうふうな機会もつくっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

## 2 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析について

○葛西教育長 それでは、最後に、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析について説明をお願いいたします。

○高橋指導課長 先ほどの学校業務サポート事業の続きのところにございますので、ごらんください。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析でございます。

1 ページをごらんください。

この調査は、小学校、種目としまして8種目ございます。中学校においては、⑤の20メートルシャトルランを、持久走か20メートルシャトルランでもいいと。それから、⑧の小学校ではソフトボール投げであったものが、ハンドボール投げと中学校のほうにはなっております。

また、今回の分析にかかわってですが、体力の合計得点、3、用語の説明のところがございます。体力の合計得点と申しますのは、8種目、上記に示されたものでございますが、その体力テストの成績を1点から10点に得点化して、その総和した体力テストの合計得点ということでございます。また、総合評価、これは5段階でございます。A、B、C、Dに分かれております。これは、体力テスト合計得点のよいほうからA、B、C、Dというような5段階評価になっております。

昨年度も、小学校38校、5年生、中学校22校、2年生、全てにおいて実施されたものでございます。

では、2ページをごらんください。

体力合計得点から見た本市の体力の状況ですが、小学校男子は全国平均を上回り、過去5年間で最高値となっております。女子は全国平均を下回りましたが、過去5年間で最高値というふうになっております。また、中学校は男女とも全国平均を上回り、過去最高値であった平成27年度と同数値になりました。女子については2年連続、全国平均を上回っております。

3ページをごらんください。

総合評価です。上位のA、B、C、この3段階の割合から見た本市の体力の状況でございます。男女ともに全国平均は下回ってはおりますけれども、過去5年間で最高値となり、全国平均との差は年々縮まってきております。

女子は全国平均に比べてA、B判定の割合が低く、C—Eの判定の割合が高いという傾向にございます。男子は三重県平均を1.6ポイント上回っているという状況にございます。

次に、中学校でございます。

4ページをごらんください。

男女とも全国平均を上回りました。男子は1.3ポイント、女子は2.1ポイント上回り、女子は過去5年間で最高値となっております。

男子は全国平均に比べてB、C判定の割合が高く、D判定の割合が低いという傾向にあります。女子は全国平均に比べA、C判定の割合が高く、B、D判定の割合が低いというような状況になっております。

5ページからでございます。

これは、各種目の分析になります。

小学校では、上体起こし、それから50メートル走、ソフトボール投げというようなところに課題が見られます。その他は全国平均かそれよりも上というような傾向です。

6ページから9ページにかけては、各種目の細かい5年間のデータ等が書かれておりますので、また後で参照してください。

10ページをごらんください。

中学校の調査種目についてです。

中学校においては男女とも、長座体前屈、反復横跳びというのは全国平均を上回っております。全国平均を下回っている種目としましては、男女とも、握力、持久走、50メートル走、立ち幅跳びというふうになっております。

このようなことから、小学校、中学校とも四日市市の課題としましては、筋力、それから走力、この中でも持久走、そして、投てき力であったりとか跳躍力というようなところで、運動の基本となるような動き、そういうものをつくっていくものに対して、やはり課題があると、今後取り組んでいかななくてはならないというふうに考えております。

このようなことから、まずは一番の運動というところでは、学校での運動というところでは、やはり体育の授業改善が必要であるというふうに考えています。目当てを提示し、子どもに見通しを持たせるなどする授業とともに、振り返る活動を通して子どもたちの意欲化につなげていきたいというふうに考えております。

また、小学校においては、業間休み、20分とか25分の休みがありますので、そのようなところでの運動の日常化というようなところへ子どもたちの意識を持っていくというような環境設定、場の設定等が必要になってくるというふうに考えております。

指導課としましては、小学校に、今の課題に合っているといたしますか、こういう道具を使うと子どもたちが日常の運動化であったりとか体育の授業の中でいろんな動きができるよということで、予算をとりましていろんなものを配付しております。ストップウォッチであったりとか、トレーニングに関する書籍であったりとか、それから、ラダー、小さいハードルのようなものであったりとか、そういうものを配置して、学校体育の充実とか、日常の運動遊びの充実に取り組んでおります。

大まかですけれども、以上です。

**○葛西教育長** いかがでしょうか。何かご質問いただくようなこと、ございませんでしょうか。

**○渡邊委員** ここまでかなり改善された、よくなったという大まかな傾向なんだけど、そ

の因果関係といえますか、これが効果的であったとか、そういうような検証は、たしか前も一度聞いたようなこともあるんですけど、いかがですかね。

○葛西教育長 検証は。

○高橋指導課長 まず、体力テストを行う前に体育担当者を招集しまして、体育担当者の研修会を実施しております。例えば立ち幅跳びにしても、着地する姿勢がきちっとできていないと、やはり突っ立ったままですと全然距離が伸びませんので、やはり行い方を正しくするというだけでも、子どもたちのほんとうに持っている力を計測できるというか、はかれると。それをやはり教員が指導できなくてはならないというようなところで、そのような指導もしたことも1つの要因であるというふうに思いますし、やはり授業改善も進んできているというところもあると思います。

○渡邊委員 だから、検証だと思うんですね。今後はどうなんだということについて、ぜひ所見をというか、方針を伺いたいと。

ここまで改善されてきたんだから今までのことをまた着実にきめ細かくやるんですというようにことなのかなとは思いますが。

○高橋指導課長 短期的には、やはり今の指導者の指導の仕方とか、授業改善というものを着々とやっていく必要があると思います。

長期的には、特に小学校では楽しみながら自然と運動ができるような場の設定というのがやっぱり必要じゃないかなというふうに思っています。

○葛西教育長 これ、教育監が昨年まで指導課長で3年間取り組んできましたので、教育監から総合的な見解を聞きたいと思います。

○廣瀬教育監 改善されてきたのは、先ほど指導課長が申し上げたとおり、持っている力を発揮させるための指導ができつつあるのかなと思っていますので、それは今後も実施の前の研修会は続けていく必要があると考えています。

あと、課題として、やはり先ほど申し上げました、握力とか体幹の筋力とか、それから、走る、投げる、跳ぶという運動の基本であるとか、これから大人になって社会で生きていく上で筋力が足りないというのは非常に後々問題が起こってくると思うので、このあたりの基本的な体づくりというのはしていかななくてはならないなど。

そんなところで、前も松崎委員もおっしゃって見えましたが、幼児からの運動経験というものが大きく影響しているところもあると思いますし、あとのこちらのデータを、最後の運動習慣のところを見ていただいてもおわかりのとおり、16ページ、特に5年生女

子が体力的にも過去最高にはなったものの全国に達しない1つの要因として、運動やスポーツは好きですかという割合がやっぱり低いというところ、これは傾向として全国的にあるので難しいところなんですけれども、こういった運動好きな子どもをどう増やしていくか、運動経験をよい体験として感覚的に持たせるということを今後トライしていかなくてはいけないのかなとも思っています。

そのことで、先ほどの課題、体幹の筋力とか、運動の基本の走る、跳ぶ、投げるというのも、運動に接する機会、時間が増えれば改善できると考えています。

今、指導課では、保育幼稚園課と連携してやらなくてはいけないんですけれども、幼児からの運動能力テストというのを、こういうのもあるので、そのあたり、そこから少しトライができればいいのかなと、幼児のころから必要な体力についてチェックをして、必要な力を伸ばしていく、それを小学校の低学年、それから高学年、中学校へつなげられるような、そんな流れができないかなということは指導課としても考えていただいているところですので、実現に向けて調整を図っていきたいと思っています。

○松崎委員 意見というか、なんですが、やはり幼稚園のとき、1年生で入った段階で好き嫌いもば一んと分かれていたり、力も、できる子、できない子で大きく分かれてはいるんですが、そのできる子は今後また、余計に好きになって頑張っていくと思うんですけれども、あまり好きでなくて苦手という子を、これからもう少し下支えできるような、組織というか、指導というか、何か手だてを考えていったほうがいいかなという気がするんですが、どうしてもマラソンを見ていても、もう遅い子はほんとうに遅くて、勉強だったら多分、助けて学校でいろいろとフォローはしてもらっているはずなんです、スポーツになるとそこまでは全くしてもらっていないということなので、何かそういう方法があればいいなと思うんですが、どうですかね。

○廣瀬教育監 昨年度の12月に、冬場のスポーツというか、運動嫌いの子も楽しくできるような内容を考えたところ、スポーツ鬼ごっこということを指導されている方がいらっしゃって、それを小学校の先生方の研修に位置づけて、12月に研修に行って、遊びの中で運動量を増やしていくという、そんな仕組みをちょっと覚えていただいた。先生方もかなり楽しく講習を受けられたので、楽しんで持って帰ったら多分、実施されているんだろうなと思いますので、そういう自然と子どもが走り回るような、そういう仕掛けができるような実技講習会を持っていく必要もあるのかなと考えています。

小さい子の指導は、指導課長、専門なので、どうぞ。



○高橋指導課長 やはり先生方が、楽しい運動というか、そういう経験をされていない方もいますので、自分、現場でおったんですけれども、OJTで月1回、それぞれの専門性を生かしたやつを1時間ぐらいやるんですが、いろいろと体育もやってきましたので、私のほうで、体力を高める運動であつたりとか、それから、ほぐしの運動であつたりとか、今、教育監が申しましたような、そういう遊びですよ、そういうものを、これは5分間運動という、それにもつながるものなんですけれども、そういうところから、運動に向かう気持ちであつたりとか、運動って楽しいんだねとか、こうやって運動の中で人とかがかわるのは楽しいんだねというような意識をやっぱり持たせるような、そんな取り組みを授業の最初にしてくださいとか、休み時間に先生も出ていって一緒に遊んでくださいとか、そういうようなところをしていくことによって、少しずつ子どもたちが、外遊びも、人数も増えてくるとか、そういうようなこともありましたので、そういうところは伝えていきたいなというふうには思っています。

○豊田委員 看護学生の話になるんですが、看護学生が学内で演習をするときに非常に動きがぎこちないということで研究があるんですけれども、そのときに、やはり共同して筋肉がちゃんと動いて一連の流れができるということ、今の若い学生たち、なかなかつながついてなくて、やっぱり今おっしゃられたような体をほぐしてって、運動するとかそういうことではなくって、協調運動していくための体をほぐして、そうして技術演習に臨むと非常に滑らかになっていったというような、ほんとうに日々の生活の中に、体育の時間だけとかそういうことではなくて、少し教える側がそういうことを意識して取り入れていただいてつなげていっていただけるといいのかなというふうに私も思います。

○葛西教育長 そうですね。この体力・運動能力の調査結果が文科省から出たときに、いわゆる幼児期に、運動が好きだ、あるいは楽しいといった、そういう子どもたちは、小学校高学年になっても、スポーツ、運動が好きだ、楽しいという、そういうふうな子どもたちが多かったと。だから、影響が、幼児期のスポーツをどうするかということが、小学校高学年まで影響があると、それがまた中学校、高校というふうにして、生涯スポーツにつながっていると。

そういうことから考えると、四日市ではやっぱり、今までいろんな手だて、してきていますけれども、これは今後の方向性としては、保育園、幼稚園も一緒になって、保、幼、小、中が9年間、先ほど豊田委員から指摘された、そういうふうな日々の生活の中で、どう子どもたちにスポーツ、運動する楽しさというものを味わわせていくかという、そうい

う視点で、生活なり授業なんかをやっぱり組んでいく、あるいは、実技講習会等、あるいはOJTを、これをみんながそれで取り組んでいくという、そういうふうな一種の運動のようなことで波及させていくということが大事なのかなというふうな、そんなふうな思いは今持っておるんですけれども、そういうふうなことも、また総合教育会議の場でも、今までは学力中心でしたけれども、今後はこういう体力というふうな面からも議論をしていく必要があるんじゃないかなというようなことを思っていますので、これもまたポイントの1つにしていきたいと思います。

○加藤委員 目指す子どもの姿を考えたときに、最近、あまりにも楽しい体育をする子どもというのが、あるいは楽しい体育を受ける子どもの姿というのが何か表に出過ぎて、何か楽しいだけでほんとうに体力向上になるのというような部分が私も常々思っていて、だから、自分の体力が向上したことを楽しむ子どもをつくっていかないかなのかなと。自分の体力が向上したことを喜び、楽しむ。だから、そういう場の設定が、ちょっと今の幼稚園も含めて、一遍抜本的に考えていくと、投てき板があるからそれにばっか一んと当たったとか、ボールを蹴ってあそこの3番に当てたとか、あるいは雲梯で何回で往復して帰ってきたとか、それがうれしいと、それが楽しいという、そこへちょっと行かないと、かつての体育の授業が、楽しい体育を目指すという、楽しいが先に頭についてしまって、だんだんと、45分楽しんだらそれでいいんだというような公式に、ややもするとなってしまうので、やっぱり自分の体力が向上したことを楽しむ、ここへ来てほしいかなと思いますね。

○葛西教育長 そうですね。全力で運動する、そして汗をだ一っとかく、あの爽快感とか、そういう満足感、うれしさという、そういうふうなものもやっぱり味わえるような楽しさという、そういうふうなこと、また、自分自身がどれだけ伸びていったのかという、そういうふうな自覚できるような、そんなふうな取り組みのようなものもやっぱり合わせてそれを考えていかなきゃならないという視点なのかな。

○加藤委員 今の現場にそれがないとは言いませんけど、そのあたりをかなり焦点化して、事務局も学校へ浸透させていってもらうというようなところが、中学校の場合のクラブというのは、勝ちたい、今度は3位に入りたいという思いの中で、やっぱりみんながす一っと行くので、あれそのものを楽しんでいるんやと思うんですよね。だから、ある意味中学生って、小学生のときから中学生になったらある程度伸びてくれるのかなという思いもせんでもないですけど、小学校の体育なり、ほんとうに今話題になっています、幼保の

体の運動、やっぱり体を使う喜びみたいところをいかないと、ちょっと一皮むけた体育になっていかないのかなという気がいたしますね。

○葛西教育長 そうですね。

○松崎委員 せめて年間で、1学期、2学期、3学期にこういったテストをして、50メートル走がどれぐらい自分が伸びたのかという表を1学期ごとにでも見てわかるようなシステムにしたら、どんどん子どもたちも頑張るんじゃないかなと思うんですが。

たしか去年のこちらのこういったものの中に、中学校の握力をつけるというところで、握力計をそれぞれ各学校に置こうかというようなことが載っていたんですが、そういったものもあって、自分でメモができるようになれば、休み時間にでもやって、少しでも気持ちも上向きになるんじゃないかなと思うんですが。

○高橋指導課長 私も児童玄関のところに握力を置いて、現場にいるときに。やっぱり子どもたちはいろいろさわったりとか、それに伴って雲梯とかジャングルジムとか鉄棒でこういう遊びができるよというようなカードを張ったりとか、教師というか、そういうようなものを作っていくんだという学校としての考え方をやっぱりつけていかないとだめだなというふうに思います。

それから、先ほど楽しい体育のことをおっしゃられたんですけども、その楽しい体育を提唱された方たちが、文科省の調査官であったりとか、そんな方になっていって、前回は学習指導要領がそういうふうになっていったんですけども、やっぱりその方たちが調査官を出て、今、全国体育学習研究会というのを立ち上げて、これは大分長いんですけども、その方たちの考えをもとに、この前、私もちょっと東京に行ってきたんですけども、その方たちの考えをもとに、11月22、23、24に四日市・三重郡でその全国発表会をするというところですので、私たちも、ほんとうは現場におったら実行委員長をする予定だったんですけども、そちらも四日市で開催されますので、そういうところで多くの先生方に来ていただいて、体育の授業のほんとうに楽しい体育というものがどういうものなのかというようなところをやっぱり見ていただけるように、四日市・三重郡としても頑張って取り組みを進めていきたいというふうに考えています。

○葛西教育長 そういう全国大会も利用しまして、四日市の教員の質のアップというふうなこともしていきたいなというようなことを思っております。

○加藤委員 しかし、何はともあれ、全国平均を上回ってきたというのがうれしいですね。

○葛西教育長 そうですね。

じゃ、よろしいでしょうか。

じゃ、今日はこのぐらいにとめたいと思います。

#### 4 閉会

○葛西教育長 それでは、次回のことについて、教育総務課長から説明をお願いします。

○長谷川教育総務課長 次回でございますが、4月18日、来週でございますが、水曜日、9時半から定例会を、こちら、教育委員会室で開催予定でございます。よろしくお願ひします。

○葛西教育長 じゃ、以上をもちまして教育委員会会議を閉会いたします。ご苦労さまでございました。

午後 3時55分 閉会